

図書館

だより Library News

今月の
新着本



「塩の街」
有川浩 / メディアワークス
塩が世界を埋め尽くす塩害の時代。塩は着々と街を飲み込み、社会は崩壊寸前。『図書館戦争』で人気の著者のデビュー作を大幅改稿。『空の中』『海の底』と合わせた自衛隊3部作の『陸』。【中央・葦山図書館所蔵】



「長く冷たい眠り」
北川歩実 / 徳間書店
数年前に脳腫瘍で亡くなった兄は、入信していた新興宗教の教団である研究をしていた。教団の秘密に迫る松岡弘道を描く表題作ほか、『生命』にまつわる傑作推理小説集。【中央・葦山図書館所蔵】



「頼朝とその弟たち」
栗林浩 / 新人物往来社
打倒平家を誓い合った5人の弟たちを、頼朝は自らの命令で次々と殺すことに…。兄弟の絆と骨肉の争いを描く表題作ほか、実朝や梶原景時などを描く歴史小説四編。【長岡図書館所蔵】



「日本一のアユ漁師と釣り人たちを育んだ狩野川」
植田正光 / つり人社
その昔、狩野川の漁師たちは、アユ釣りだけで家族を養うほどの腕前だった。狩野川漁業共同組合長を務める著者の、狩野川とアユ釣りへの思い。【葦山図書館所蔵】

中央図書館改修記念イベント 星のおはなし会 参加者募集

小さなかわいいドームでプラネタリウムの上映をします。満点の星空と星についてのおはなしをたのしもう！
とき 10月20日(土)14:00～、15:00～、16:00～
10月21日(日)10:00～、11:00～、13:00～
(上演時間は各回約30分間です)
ところ 中央図書館2階視聴覚室
対象 5歳くらい～小学生(保護者同伴可)
定員 各回10人 計60人(申し込み順)
申込み 10月6日(土)から。中央図書館へ電話またはカウンターで。



問合せ

【中央図書館】電話 0558 76 5566
休館日 10月1日(月)・8日(月)
9日(火)・15日(月)
22日(月)・26日(金)
29日(月)

【長岡図書館】電話 055 947 2364
休館日 10月1日(月)・8日(月)
9日(火)・15日(月)
22日(月)・26日(金)
29日(月)

【葦山図書館】電話 055 949 8605
休館日 10月3日(水)・8日(月)
10日(水)・17日(水)
24日(水)・26日(金)
31日(水)

おすすめの1冊



「さよなら日だまり」
平田俊子 / 集英社
「わたしの知り合いに占い師がいるの。これがよく当たるのよ」。愚かな男と悪魔な女。占い師に手のひらをあずけた瞬間から、わたしたちは終わりに向かった。【中央・長岡図書館所蔵】



「友だちに「死にたい」といわれたとき、きみにできること」
リチャード・E・ネルソン / ゴマブックス
「もう生きていたくない」そんなことを言う友だちの本心が「生きていたんだ、だれか助けて」だとしたら...? 【中央図書館所蔵】

保存期間の過ぎた雑誌を無料配布します!(なくなり次第終了)
【中央図書館・長岡図書館】
10月27日(土)～11月4日(日)の図書館開館日9:00～17:30
【葦山図書館】
10月27日(土)、28日(日)、11月3日(土)、4日(日)9:30～15:30
*図書館によって雑誌の種類が異なります。袋などお持ちいただくことをお勧めします。

長岡京市の作品がやってきます

姉妹都市・京都府長岡京市から、同市文化協会の招待作品が、文化交流の一環として市民文化祭展示会場に出展されます。これは旧伊豆長岡町当時から続いている友好活動で、返礼として伊豆の国市からも作品を選



抜して送っています。長岡京市民を代表する作品を、会場でご鑑賞ください。

なお、市民文化祭の詳細は、今号と同時配布のプログラムをご覧ください。

昨年の長岡京市招待作品

20 文化協会のだより

問合せ 社会教育課
電話 055 948 1461



その30 県指定文化財紹介3



縄の文様が付いている復元された土器

縄文人の作った市内最古の土器

『仲道A遺跡出土縄文草創期遺物一括』とは、三福の熊野神社を中心とする広大な遺跡、仲道A遺跡から出土した、縄文時代初期(約一万年)の草創期と呼ばれる時期の土器や石器合わせて七百七十三点のことです。この遺跡は旧石器時代(約一万五千年前)から縄文時代までと、平安時代から鎌倉時代にかけての複合遺跡で、昭和五十八年の発掘調査でこの時代の土器が発見され、当時は県内最古として注目をあびました。

葦山庁舎ロビーに展示してある土器



復元された二つの土器
七百七十三点の破片から二つの土器が復元されました。一つは、口の直径が三十センチ、高さ二十三センチ、もう一つは、直径三十三センチ、高さ十九センチ、二つとも角の丸い方形をしています。
どちらの土器にも、縄文時代の名称のもととなった縄で付けられた文様があります。この文様は、細く擦った植物の繊維(縄)を土器の表面に押し付けたり、転がしたりして付けています。
この土器が発見されたことによって、静岡県の縄文時代初期ごろの土器が見直され、よく研究されるようになったことから、静岡県でのこの時代の研究のきっかけを作った土器といえましょう。
また、日本の縄文時代初期ごろの土器の移り変わりや、生活を復元するために重要なものとして評価されています。
復元された土器の一つは、葦山庁舎ロビーに展示してあります。